# Briefing Transcription

‖　2026 年 2 月期 第 3 四半期決算説明会文字起こし　‖

# 株式会社ＪＲＣ

## 6224 東証グロース市場

企業情報はこちら >>>

紹介動画はこちら>>>

## 2026 年 1 月 21 日（水）

FISCO Ltd.
https://www.fisco.co.jp

株式会社 JRC
6224 東証グロース市場

2026 年 1 月 21 日（水）
https://corp.jrcnet.co.jp/ir/

# ■目次

■ 決算説明会を受けての FISCO アナリストコメント ---------- 1
■ 出演者 ---------- 2
■ 決算説明 ---------- 3

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document

株式会社 JRC
6224 東証グロース市場

2026 年 1 月 21 日（水）
https://corp.jrcnet.co.jp/ir/

# ■決算説明会を受けての

# ＦＩＳＣＯアナリストコメント

・コンベヤ事業およびロボットSI事業が堅調に推移し、2026年２月期の第３四半期（3Q）決算も好調。営業利益は期初計画値で119.4%と上振れ（通期累計の業績予想は上方修正されているが、下半期の計画は修正されていない）。

・第2四半期に完成予定の工事も第1四半期に前倒しとなり、2Qのみだと営業利益が前年同期比で減少、2Q決算後発表後に株価が調整していたが、昨年12月の業績予想の上方修正、今3Q決算を経て、高い成長を見込む今期予想の達成確度が高いという認識が浸透するだろう。

・これまでの成長スピードはもちろん、前期から2028年2月期、もしくは10年後の営業利益CAGRの2割強の増加であることを考慮すれば、2028年2月期の中計達成時におけるPER25倍も視野に入り、その株価は現状の約2倍となる3,000円程度も試算される（現在株価は1,318円）。製造業を中心とした連続M&Aをてがける企業並みのPERとなれば、さらに上の株価が視野に入ることとなろう。なお、長期ビジョンである営業利益120億円達成時のPER15倍は、現状の5.8倍となる。配当利回りも2%強であり、キャピタルゲインとインカムゲインがバランスしている。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document

## ■出演者

**株式会社ＪＲＣ**

**代表取締役社長　　浜口　稔　様**

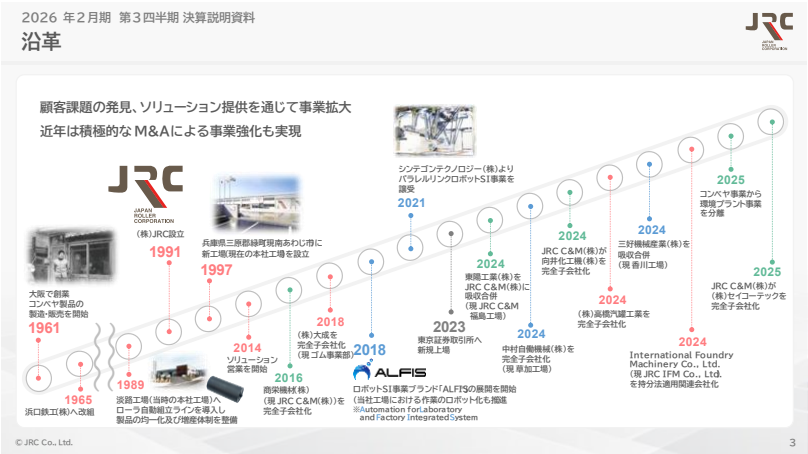
本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document

# ■決算説明

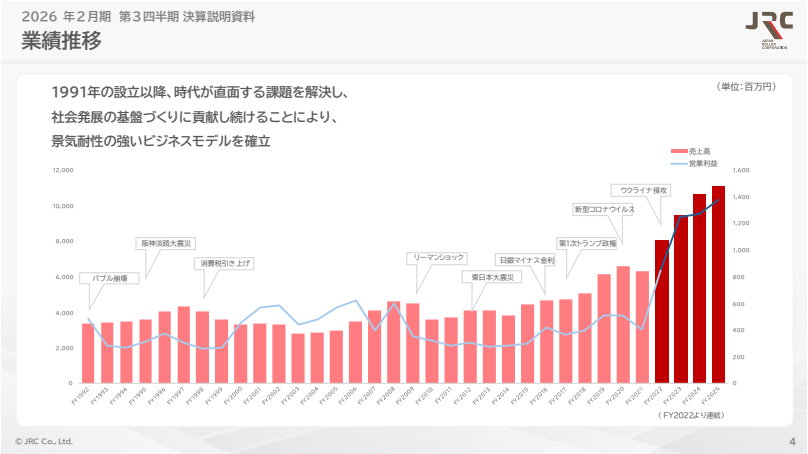
株式会社JRC代表取締役社長の浜口でございます。
2026年2月期第3四半期決算につきまして、1月14日に公表した内容を中心にご説明いたします。

当社は、「発見を、発展へ」を企業スローガンに掲げ、ニッチトップ・リカーリングなコンベヤ事業、自社一貫の対応力を強みとする環境プラント事業、そして製造業として培ってきた経験やノウハウを活かしたロボットSI事業の三つの事業を展開しております。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document




1961年の創業以来、「お客様の課題を解決し、社会の発展に貢献する」という考え方を一貫して大切にしてまいりました。顧客課題を的確に発見し、その解決に向けた最適なソリューションを提供することで、事業を着実に拡大してきたと考えております。近年では、積極的にM&Aを実施し、事業領域の拡大を継続しております。




こちらのスライドは、1991年の設立以降から現在までの業績推移を示したものです。国内外でさまざまな事業環境の変化がある中でも、一貫して営業黒字を継続しており、景気耐性の高いビジネスモデルを確立している点が当社の特長です。

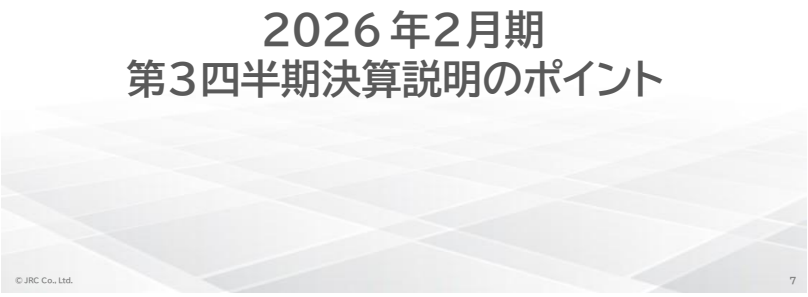
本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document

続いて、海外生産拠点の設立についてご説明いたします。
2025年12月12日に公表しました通り、海外に新たな生産拠点を設立するため、ベトナムに100%子会社を設立することを決定いたしました。
これまで当社は、日本国内の生産拠点から海外のお客様へ製品を輸出する体制を主としてまいりました。しかし、近年は東南アジア地域におけるインフラ投資の加速に伴い、搬送設備の需要が拡大しているほか、グローバル市場での競争も一層激化しております。そのため、需要地に近い場所での生産・供給体制の構築が、喫緊の課題となっておりました。
こうした環境変化を踏まえ、当社はベトナムに新たな製造拠点を設立し、海外規格に対応した製品の現地製造体制を確立いたします。あわせて、日本で培ってきた高い品質管理基準や製造ノウハウを現地へ移管し、日本品質の製品を競争力のある価格と納期で提供できる体制を整備してまいります。当社グループでは、本拠点の設立を海外事業展開における重要なマイルストーンと位置づけ、グローバルでの事業展開を一層加速させてまいります。

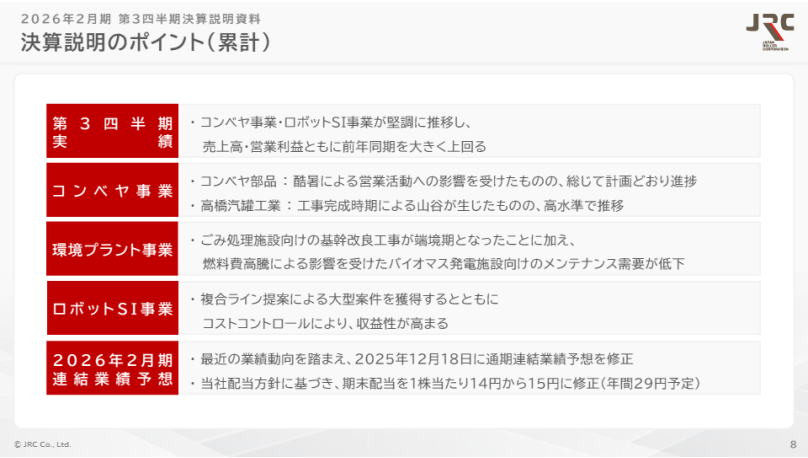
続いて組織体制の見直しについてご説明いたします。
2025年12月18日には、2026年3月1日よりカンパニー制を導入し、新たな組織体制での事業運営を開始することを決定いたしました。近年、積極的なM&Aによりグループ会社が増加し、各事業の収益構造や投資規模、成長スピードが大きく変化しております。このような状況を踏まえ、さらなる経営体制の強化が必要であると判断いたしました。
そこで、各事業における責任の所在を明確にし、意思決定の迅速化を図ることが、持続的な成長の実現に不可欠であると

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document

考え、カンパニー制の導入を決定いたしました。本制度の導入により、グループ全体の戦略を担うコーポレート部門と、事業執行を担う各カンパニーの役割を明確にし、自立性と機動性を兼ね備えた経営体制の確立を目指してまいります。
さらに、グループ内でのシナジー創出、収益力の強化、経営の効率化に加え、次世代経営者の育成にも取り組み、当社グループ全体の成長を一段と加速させていく考えです。




ここからは、2026年2月期第3四半期決算のポイントについてご説明いたします。



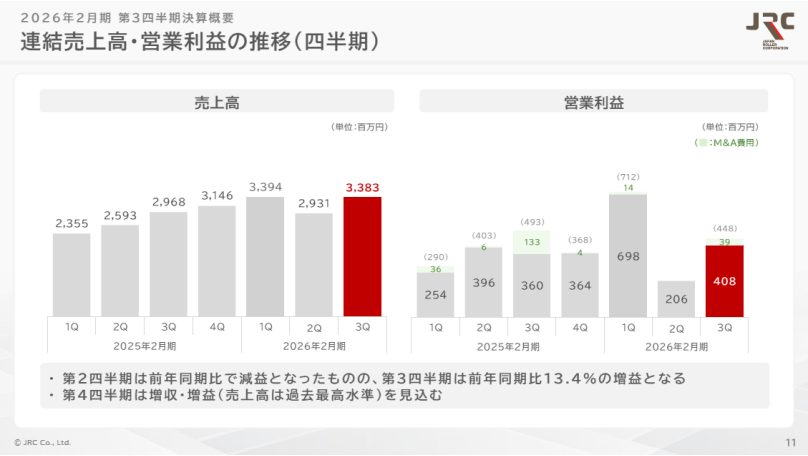

第3四半期累計期間の主なポイントとしては、コンベヤ部品事業及びロボットSI事業が堅調に推移し、売上高、営業利益ともに前年同期を大きく上回りました。
セグメント別では、コンベヤ事業において高橋汽罐工業が高水準で推移した一方、環境プラント事業では基幹改良工事が端境期となりました。ロボットSI事業につきましては、一部期ずれの影響を受けたものの、大型案件の獲得やコストコントロールの徹底により、収益性が向上いたしました。
また、直近の業績動向を踏まえ、2025年12月18日に通期連結業績予想を修正いたしました。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document

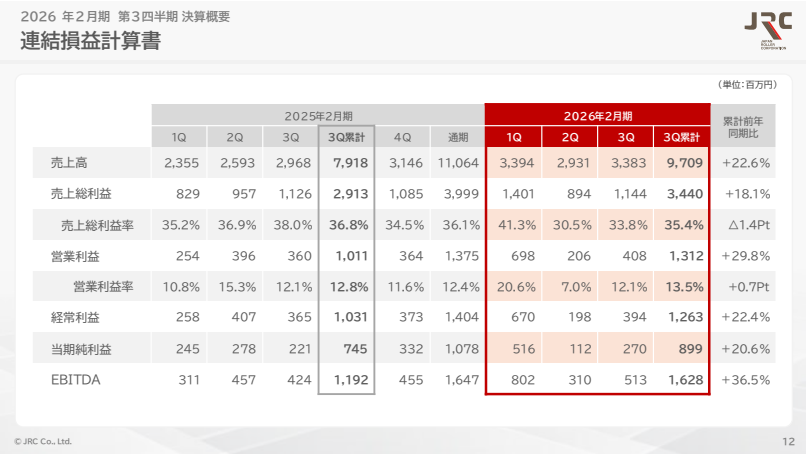
続いて、2026年2月期第3四半期における連結業績及び各セグメントの業績についてご説明いたします。

第3四半期連結累計期間の業績ハイライトといたしましては、コンベヤ事業及びロボットSI事業が堅調に推移したことから、前年同期比で売上高は22.6%増加、営業利益は29.8%増加となりました。なお、連結業績予想につきましては2025年12月18日に修正を行っておりますが、連結・セグメント別ともに下期計画の修正は実施しておりません。そのため、事業計画に対する第3四半期累計期間の達成率については、2025年4月14日に公表した期初計画を代用しております。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document




四半期会計期間の連結業績につきましては、高橋汽罐工業と向井化工機の完成工事が第1四半期に集中していたことと、高橋汽罐工業の第1四半期の計画外工事の計上と、第2四半期完成予定の工事の前倒しなどが重ななったことで、前年同期比で減益となった第2四半期に対し、第3四半期は前年同期比で13.4%の増益となりました。
なお、第4四半期の売上高は過去最高の水準を見込んでおります。




| | 2025年2月期 | | | | | | 2026年2月期 | | | | 累計前年同期比 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1Q | 2Q | 3Q | 3Q累計 | 4Q | 通期 | 1Q | 2Q | 3Q | 3Q累計 | |
| 売上高 | 2,355 | 2,593 | 2,968 | 7,918 | 3,146 | 11,064 | 3,394 | 2,931 | 3,383 | 9,709 | +22.6% |
| 売上総利益 | 829 | 957 | 1,126 | 2,913 | 1,085 | 3,999 | 1,401 | 894 | 1,144 | 3,440 | +18.1% |
| 売上総利益率 | 35.2% | 36.9% | 38.0% | 36.8% | 34.5% | 36.1% | 41.3% | 30.5% | 33.8% | 35.4% | △1.4Pt |
| 営業利益 | 254 | 396 | 360 | 1,011 | 364 | 1,375 | 698 | 206 | 408 | 1,312 | +29.8% |
| 営業利益率 | 10.8% | 15.3% | 12.1% | 12.8% | 11.6% | 12.4% | 20.6% | 7.0% | 12.1% | 13.5% | +0.7Pt |
| 経常利益 | 258 | 407 | 365 | 1,031 | 373 | 1,404 | 670 | 198 | 394 | 1,263 | +22.4% |
| 当期純利益 | 245 | 278 | 221 | 745 | 332 | 1,078 | 516 | 112 | 270 | 899 | +20.6% |
| EBITDA | 311 | 457 | 424 | 1,192 | 455 | 1,647 | 802 | 310 | 513 | 1,628 | +36.5% |

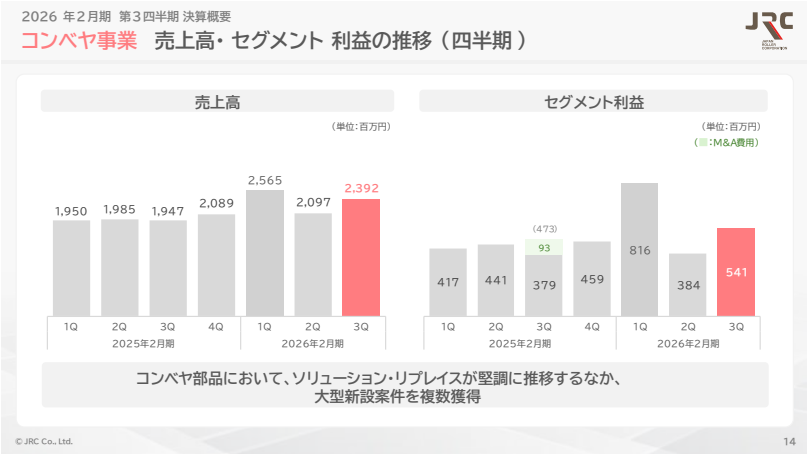
以上の結果、2026年2月期第3四半期の連結業績は、
売上高97億900万円（前年同期比22.6%増加）、
営業利益13億1,200万円（同29.8%増加）、
経常利益12億6,300万円（同22.4%増加）、
当期純利益8億9,900万円（同20.6%増加）となりました。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document

次に、セグメント別業績についてご説明いたします。

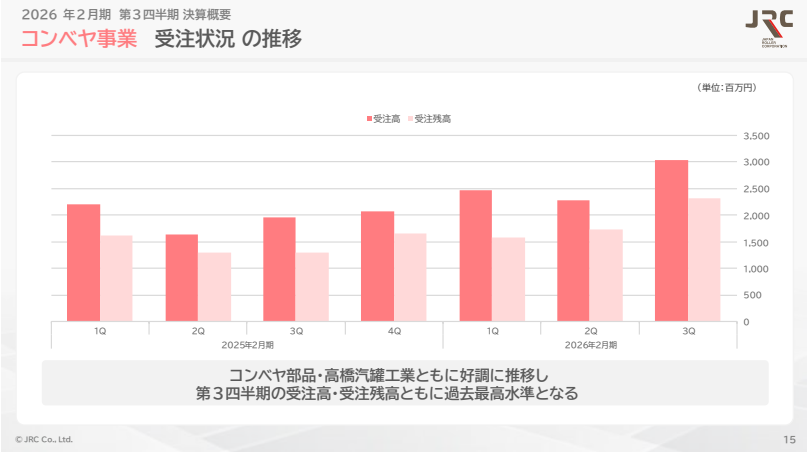
コンベヤ事業の第3四半期業績のハイライトとしては、コンベヤ部品について、酷暑による営業活動の影響をうけたものの、全体としては計画通りに推移いたしました。高橋汽罐工業につきましては、完成工事の有無により四半期ごとの業績に山谷が生じましたが、累計期間の業績としましては好調に推移しております。

その結果、コンベヤ事業の売上高は前年同期比19.9%増加の70億5,500万円、セグメント利益は同40.8%増加の17億4,200万円となりました。




四半期会計期間の業績につきましては、コンベヤ部品においてソリューション・リプレイスが堅調に推移する中、大型の新設案件を複数獲得したことにより、売上高は前年同期比22.9%増加の23億9,200万円、セグメント利益は同42.7%増加の5億4,100万円となりました。

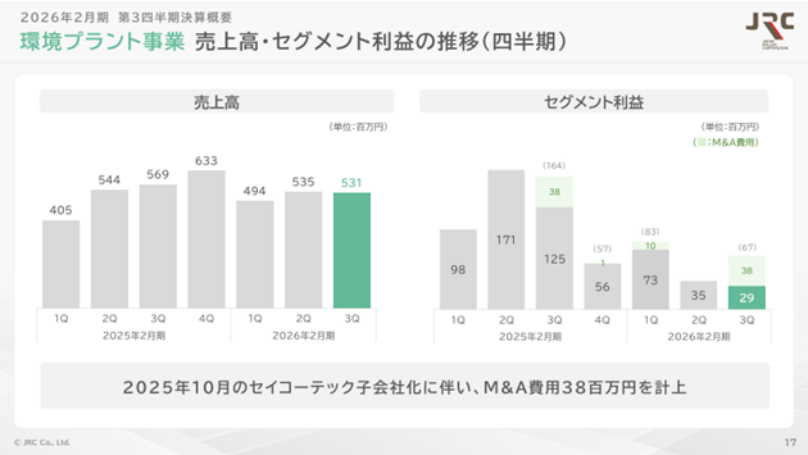
本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document




第3四半期の受注状況については、コンベヤ部品事業及び高橋汽罐工業ともに好調に推移しており、受注高、受注残高ともに過去最高水準となりました。特に受注高は、30億円規模まで拡大いたしました。

次に、環境プラント事業の第3四半期業績のハイライトについてご説明いたします。
ごみ処理施設向けの基幹改良工事が端境期となったことに加え、燃料費高騰の影響を受けたバイオマス発電施設向けのメンテナンス需要が低下したことから、売上高は前年同期比2.8%増加の15億6,100万円となりました。一方で、セグメント利益は同65.2%減少の1億3,700万円となっております。
また、期初計画ベースにおきましても、売上高及びセグメント利益ともに減速する結果となりました。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document

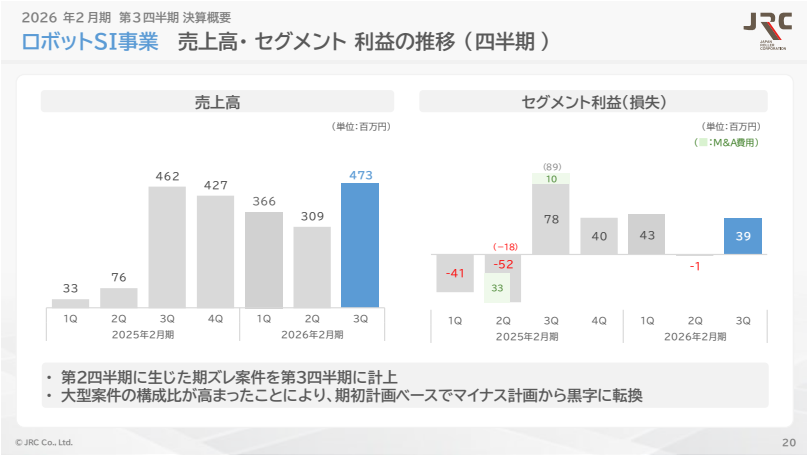



四半期会計期間の業績につきましては、2025年10月に、セイコーテックを当社子会社であるJRCM＆Mの子会社としたことに伴い、M&A関連費用として3,800万円を計上しております。また、今後の事業拡大を見据え、積極的に工事人材の採用を進めたことから、人件費が増加いたしました。

第3四半期の受注状況につきましては、2027年2月期に計上予定の案件を中心に、回復基調で推移いたしました。

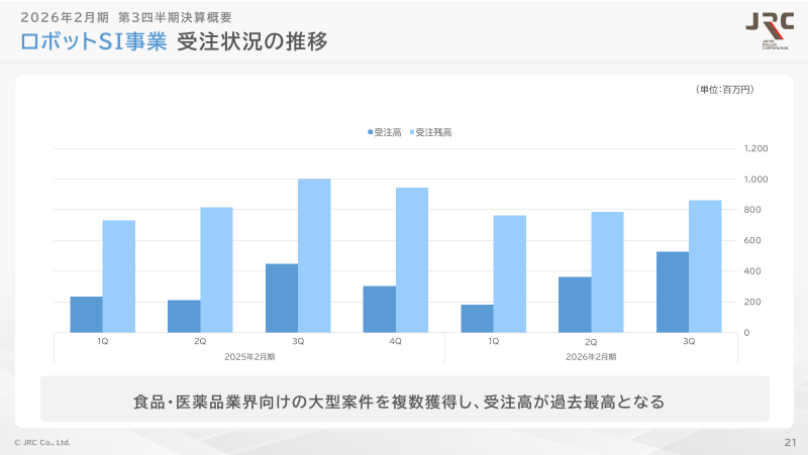
本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document

次に、ロボットSI事業の第3四半期業績のハイライトについてご説明いたします。
当社が積極的に展開している複合ラインの提案が奏功し、食品・医薬品業界向けの大型案件の構成比が高まるとともに、コストコントロールの徹底により収益性が向上いたしました。その結果、売上高は前年同期比101.1%増加の11億5,000万円、セグメント利益は9,600万円増加し、8,100万円となりました。期初計画ベースにおいても、セグメント利益の達成率は358.7%まで拡大しており、極めて好調に推移しております。




四半期会計期間の業績につきましては、第2四半期に発生した期ズレ案件を第3四半期に計上したことに加え、大型案件の構成比が高まったことにより、期初計画ベースではマイナス計画から、営業利益率8.3%と黒字転換いたしました。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document




また、第3四半期の受注状況としては、食品・医薬品業界向けの大型案件を複数獲得したことにより、受注高は5億2,700万円まで拡大し、過去最高水準となっております。

2026年2月期 第3四半期決算概要
セグメント業績

（単位：百万円）

| | 2025年2月期 | | | | | | 2026年2月期 | | | | 前年同期比 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1Q | 2Q | 3Q | 3Q累計 | 4Q | 通期 | 1Q | 2Q | 3Q | 3Q累計 | |
| 売上高 | 2,355 | 2,593 | 2,968 | 7,918 | 3,146 | 11,064 | 3,394 | 2,931 | 3,383 | 9,709 | +22.6% |
| コンベヤ事業 | 1,950 | 1,985 | 1,947 | 5,883 | 2,089 | 7,972 | 2,565 | 2,097 | 2,392 | 7,055 | +19.9% |
| 環境プラント事業 | 405 | 544 | 569 | 1,518 | 633 | 2,152 | 494 | 535 | 531 | 1,561 | +2.8% |
| ロボットSI事業 | 33 | 76 | 462 | 571 | 427 | 999 | 366 | 309 | 473 | 1,150 | +101.1% |
| 調整額 | △32 | △12 | △10 | △55 | △4 | △60 | △31 | △11 | △14 | △57 | △1百万円 |
| 営業利益 | 254 | 396 | 360 | 1,011 | 364 | 1,375 | 698 | 206 | 408 | 1,312 | +29.8% |
| （率） | 10.8% | 15.3% | 12.1% | 12.8% | 11.6% | 12.4% | 20.6% | 7.0% | 12.1% | 13.5% | +0.7Pt |
| コンベヤ事業 | 417 | 441 | 379 | 1,238 | 459 | 1,697 | 816 | 384 | 541 | 1,742 | +40.8% |
| （率） | 21.4% | 22.2% | 19.5% | 21.0% | 22.0% | 21.3% | 31.8% | 18.3% | 22.6% | 24.7% | +3.7Pt |
| 環境プラント事業 | 98 | 171 | 125 | 395 | 56 | 451 | 73 | 35 | 29 | 137 | △65.2% |
| （率） | 24.3% | 31.5% | 22.1% | 26.0% | 8.9% | 21.0% | 14.8% | 6.6% | 5.5% | 8.8% | △17.2Pt |
| ロボットSI事業 | △41 | △52 | 78 | △15 | 40 | 25 | 43 | △1 | 39 | 81 | +96百万円 |
| （率） | – | – | 17.0% | – | 9.6% | 2.6% | 11.9% | – | 8.3% | 7.1% | – |
| 調整額 | △219 | △163 | △223 | △606 | △192 | △799 | △235 | △212 | △201 | △649 | △42百万円 |

© JRC Co., Ltd. 22

以上、調整額を含めたセグメント業績につきましては、ご覧のとおりとなりました。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document

2026 年2月期 第3四半期 決算概要

## 連結貸借対照表

（単位：百万円）

| 資　産 | 2025年2月末 | 2025年11月末 | 増減額 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 流動資産 | 7,455 | 7,781 | +325 | 主な要因：売掛金、未成工事支出金の増加 |
| 固定資産 | 5,646 | 5,298 | △348 | |
| 有形固定資産 | 3,547 | 3,535 | △11 | |
| 無形固定資産 | 798 | 886 | +87 | うち、のれん539百万円 |
| 投資その他資産 | 1,300 | 875 | △424 | 主な要因：保険積立金の解約 |
| 資産合計 | 13,101 | 13,079 | △22 | |
| 負　債 | | | | |
| 流動負債 | 5,657 | 4,421 | △1,236 | 主な要因：短期から長期への借り換えによる短期借入金の減少 |
| 固定負債 | 2,829 | 3,345 | +515 | 主な要因：短期から長期への借り換えによる長期借入金の増加 |
| 負債合計 | 8,487 | 7,766 | △721 | |
| 純資産 | | | | |
| 純資産合計 | 4,614 | 5,313 | +698 | 主な要因：四半期純利益計上による利益剰余金の増加 |
| 自己資本比率 | 35.2% | 40.6% | +5.4pt | |

© JRC Co., Ltd.


続いて、連結貸借対照表についてご説明いたします。
第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて2,200万円減少し、130億7,900万円となりました。これは主に、流動資産が3億2,500万円増加した一方で、投資その他の資産が4億2,400万円減少したことによるものです。
負債につきましては、前連結会計年度末に比べて7億2,100万円減少し、77億6,600万円となりました。主な要因は、短期借入金が12億3,600万円減少した一方で、固定負債が5億1,500万円増加したことによるものです。
純資産は、前連結会計年度末に比べて6億9,800万円増加し、53億1,300万円となりました。以上の結果、自己資本比率は5.4ポイント上昇し、40.6%となっております。

2026 年2月期 第3四半期 決算概要

## KPI計画及び進捗

（単位：百万円）

| | | 2025年2月期実績 | | | | | | 2026年2月期 | | | | 計画 | 進捗率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1Q | 2Q | 3Q | 3Q累計 | 4Q | 通期 | 1Q | 2Q | 3Q | 3Q累計 | | |
| 全社 | 売上高 | 2,355 | 2,593 | 2,968 | 7,918 | 3,146 | 11,064 | 3,394 | 2,931 | 3,383 | 9,709 | 13,450 | 72.2% |
| | 営業利益 | 254 | 396 | 360 | 1,011 | 364 | 1,375 | 698 | 206 | 408 | 1,312 | 1,830 | 71.7% |
| | 営業利益率 | 10.8% | 15.3% | 12.1% | 12.8% | 11.6% | 12.4% | 20.6% | 7.0% | 12.1% | 13.5% | 13.6% | – |
| | ROE | – | – | – | – | – | 23.4% | – | – | – | – | 22.8% | – |
| コンベヤ事業 | ソリューション売上高 | 456 | 326 | 350 | 1,134 | 368 | 1,503 | 479 | 424 | 440 | 1,344 | 1,691 | 79.5% |
| | ソリューション売上高比率 ※ | 24.0% | 16.9% | 18.4% | 21.1% | 20.6% | 20.0% | 27.4% | 24.9% | 22.5% | 24.8% | 22.6% | – |
| 環境プラント事業 | 受注高 | 897 | 471 | 305 | 1,674 | 709 | 2,384 | 880 | 303 | 683 | 1,867 | 3,100 | 60.2% |
| | セグメント利益 | 98 | 171 | 125 | 395 | 56 | 451 | 73 | 35 | 29 | 137 | 269 | 51.1% |
| ロボット SI 事業 | 受注高 | 237 | 212 | 448 | 897 | 304 | 987 | 182 | 364 | 527 | 1,075 | 1,600 | 67.2% |
| | セグメント利益 | △41 | △52 | 78 | △15 | 40 | 25 | 43 | △1 | 39 | 81 | 94 | 86.9% |

※ ソリューション売上高比率 =国内ソリューション売上高 ÷国内売上高

© JRC Co., Ltd.


2026年2月期のKPIにつきましては、全社業績は修正計画の達成に向けて順調に進捗しております。
事業別に見ますと、コンベヤ事業では引き続きソリューションが好調に推移しており、環境プラント事業は基幹改良工事やバイオマス発電施設の影響を受けております。ロボットSI事業については、食品・医薬品業界を中心に堅調に推移しております。今後も、各事業においてKPI達成に向けた取り組みを着実に進めてまいります。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document

続いて、2026年2月期の連結業績予想についてご説明いたします。

2026年2月期 連結業績予想

## 2026年2月期連結業績予想

（単位：百万円）

| | 2025年2月期 | 2026年2月期 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 2025年12月18日修正内容 | | | |
| | 通期実績 | 修正前通期予想 | 4Q計画 | 4Q 前年同期比 | 通期予想 | 通期 前年同期比 |
| 売上高 | 11,064 | 13,663 | 3,740 | +18.9% | 13,450 | +21.6% |
| 営業利益 | 1,378 | 1,728 | 517 | +42.0% | 1,830 | +32.8% |
| 営業利益率 | 12.5% | 12. 7% | 13.8% | +2.2pt | 13.6% | +1.0pt |
| 経常利益 | 1,407 | 1,713 | 551 | +47.9% | 1,815 | +29.0% |
| 当期純利益 | 1,078 | 1,147 | 320 | △3.8% | 1,220 | +13.1% |

© JRC Co., Ltd. 26

2025年12月18日に公表したとおり、連結業績予想を修正しております。
修正後の連結業績予想は、
売上高134億5,000万円、
営業利益18億3,000万円、
経常利益18億1,500万円、
当期純利益12億2000万円としております。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document

2026 年2月期 連結業績予想

## 2026年 2月期連結業績予想

（単位：百万円）

| | 2024年 2月期実績 | 2025年 2月期実績 | 2026年2月期 修正前通期予想 | 2026年2月期 修正後通期予想 | 2026年2月期 増減額 | 前期比 増減額 | 前期比 増減率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 9,473 | 11,064 | 13,663 | 13,450 | △213 | +2,385 | +21.6% |
| コンベヤ事業 | 7,249 | 7,972 | 9,460 | 9,977 | +517 | +2,004 | +25.1% |
| 環境プラント事業 | 1,542 | 2,152 | 2,645 | 2,190 | △455 | +37 | +1.7% |
| ロボット SI 事業 | 744 | 999 | 1,621 | 1,446 | △175 | +446 | +44.7% |
| 調整額 | △63 | △60 | △63 | △163 | △100 | △102 | — |
| 営業利益 | 1,270 | 1,375 | 1,728 | 1,830 | +101 | +454 | +33.0% |
| コンベヤ事業 | 1,669 | 1,697 | 2,115 | 2,379 | +264 | +681 | +40.1% |
| 環境プラント事業 | 258 | 451 | 452 | 269 | △183 | △182 | △40.5% |
| ロボット SI 事業 | 5 | 25 | 73 | 94 | +21 | +68 | +266.7% |
| 調整額 | △662 | △799 | △912 | △912 | 0 | △113 | — |

© JRC Co., Ltd. 27

セグメント別では、
コンベヤ事業が売上高99億7,700万円、セグメント利益23億7,900万円、
環境プラント事業が売上高21億9,000万円、セグメント利益2億6,900万円、
ロボットSI事業が売上高14億4,600万円、セグメント利益9,400万円へと修正しております。

2026年2月期 連結業績予想

## 株主還元

### 基本方針・配当予想

当社は、株主に対する利益還元を経営上の重要課題の一つと認識し、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、継続的かつ安定した配当を行うことを基本方針とし、連結配当性向30%程度を目安に配当の実施を目指しております。
2026年2月期の配当金につきましては、1株当たり中間14円、期末15円の年間29円を予定しております。

| | 1株当たり配当金 中間 | 期末 | 年間 | 配当性向 |
|---|---|---|---|---|
| 2026年2月期 | 14円(実績) | 15円(予想) | 29円(予想) | 30.3% |
| 2025年2月期(実績) | 13円 | 13円 | 26円 | 29.6% |
| 2024年2月期(実績) | – | 21円 | 21円 | 31.3% |

© JRC Co., Ltd. 28

また、連結業績予想の修正を踏まえ、当社の配当方針に基づき、期末配当を1株当たり14円から15円へ修正し、年間配当は29円を予定しております。なお、中間配当につきましても13円から14円へ修正しており、これらを合わせ、期初計画から年間で2円の増配となる見込みです。

私からのご説明は以上となります。
ご清聴いただき、誠にありがとうございました。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document

重要事項（ディスクレーマー）

株式会社フィスコ(以下「フィスコ」という)は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受け、企業から報酬を受け取って作成されています。本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正･加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■
〒107-0062東京都港区南青山5-13-3
株式会社フィスコ
電話：03-5774-2443（IRコンサルティング事業本部）
メールアドレス：support@fisco.co.jp